

荒川下流河川敷のヘビにご注意ください

- ・ヘビを見かけたら**近づかずその場から直ちに離れて**ください。
- ・活動される際は、**長袖・長ズボン**を着用し、肌を露出しないようにお願いいたします。
- ・ゴミ拾いの際は、**金ばさみやトング**で拾うようお願いいたします。**(素手NG)**

Q. もしヘビに咬まれたらどうすればいいですか？

A. **咬まれた部分を動かさず**、なるべく血液の循環をさせないよう安静にし、**速やかに119通報**してください。その際に、**どのようなヘビに咬まれたか**の情報を可能な限り正確に伝えてください。もし「救急車を呼ぶべきか」判断に迷われた際には、「#7119」（東京消防庁救急相談センター）にご相談ください。また、**指輪や腕時計は外して**おいてください。

Q. もし毒をもつヘビに咬まれた場合、血清をすぐに投与しないと命に危機が及びますか？

A. ひとまず、日本の身近な毒ヘビに咬まれて即死することはありません。マムシやヤマカガシに咬まれた場合でも、症状が出始めるまでに半日程度は猶予があります。治療はヘビの種類、症状等から慎重に診断する必要があるため、まずは落ち着いて119通報、または、#7119へ相談をお願いします。

Q. 救急用器具（ポイズンリムーバー）等の使用は有効？

A. 適切な指導を受けた熟練の方であれば有効であると考えられますが、よく知らずにその場凌ぎで器具を使用したり、安易に真似をすると、かえって状況が悪化するおそれがあります。

Q. ヘビか何かに咬まれたけど何も症状が出ないから病院に行かなくても良い？

A. ダメです。病院に行ってください。すぐに症状が出ない場合があるため、放置すると重症化するおそれがあります。

咬傷の初動対応は

119（緊急通報）

または

#7119



に相談です！



参考：ヘビの同定は難しい

ヘビ咬傷への対処はヘビの判別が重要となりますが、子と親、個体や地域などによって、色彩や模様などの変異が大きく、一般の方には同定が難しいです。

たとえば、ヤマカガシによる咬傷は非常に稀ですが、マムシによる咬傷と間違われることがしばしばあります。あくまで参考としますが、この2種には以下の特徴があります。

	写真	特徴	牙痕(咬まれた傷跡)	症状例
ニホンマムシ		<ul style="list-style-type: none"> ・褐色ないし赤褐色もしくは茶色ないしこげ茶色で、丸い大きな斑紋が体の左右に1列ずつ並び、その斑紋の中心に暗色の点がある。 ・眼では虹彩の下半分は黒っぽく、眼の後ろに太い黒い線が続く。 ・全長は大きくても60cmほど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・針で刺したようなあとが1つまたは1cm前後の間隔で2つある（時には3つまたは4つの場合もある）。 ・まれに小さな切り傷として残ることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・咬まれた局所を中心に痛みと腫れが広がる。（まれに軽度の場合もある） ・痛みや腫れは軽いが、血圧の低下や出血傾向が見られる。
ヤマカガシ		<ul style="list-style-type: none"> ● 関東、東北（写真左上） ・赤と黒の斑紋が交互に並び、下あごや頸の付近が黄色っぽい。 ● 近畿、中部（写真右下） ・全身がくすんだ緑色で、赤や黒の斑紋はほとんどないか、赤い斑紋がわずかに残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2列ないし4列の歯形がある。しかし、咬まれた時には前の歯だけが引っかかる場合が多く、1、2mmの間隔で2、3個の傷が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な症状はない。 ・数時間から1日ほど経過して、歯ぐきや傷からの持続性の出血が見られる。30分ほどで一過性の激しい頭痛を伴うこともある。

※ヘビの活動期間は4月下旬から11月の暖かい時期とされていますが、近年冬期まで暖かいので注意が必要です